

## 第27回 国際度量衡総会 (CGPM) の開催と臼田計量標準総合センター長の国際度量衡委員会 (CIPM) 幹事の再選

2022年11月15日から18日の4日間の日程で、第27回 国際度量衡総会 (CGPM) がフランスのベルサイユ国際会議場にて開催されました。総会は、現地参加に加えオンライン参加を可能としたハイブリッド形式で運営され、「SI 接頭語の範囲拡大」や「今後の秒の再定義」などを含む7つの決議案が承認されました。

決議により追加されたSI接頭語は、10の27乗「ロナ (R)」、10の30乗「クエタ (Q)」、10のマイナス27乗「ロント (r)」、10のマイナス30乗「クエクト (q)」の4つです。今回の範囲拡大は1991年以来31年ぶりとなり、急速なデジタル化にともなうデータ量増大への対応など、世界規模で進む科学技術の高度化が背景となっています。また、情報通信分野等に大きな影響を及ぼす事項として、うるう秒の実質廃止についても決議されました。

会期中には、国際連合工業開発機関 (UNIDO) の事務次長を務める安永裕幸氏による講演があり、国連が目指すSDGsと標準化の関係について世界各国の計量業務関係者に向け、有益なメッセージが届けられました。

最終日には、国際度量衡委員会 (CIPM) の委員選挙及びCIPMの選挙委員会 (CEC) のメンバー選挙の結果が報告され、臼田孝計量標準総合センター長がCIPM委員に再選されるとともに、小島時彦副総合センター長がCECメンバーに選出されました。いずれも得票数1位であり、世界におけるNMIJの存在感を示す結果となりました。その後、2023年3月21日～23日に開催された第112回CIPMでは、臼田計量標準総合センター長が幹事に再選され、2023年3月21日からの4年間、引き続きBIPMの監督及びCIPMの運営の任にあたることになりました。また、次回のCGPMでは、議長を補佐し総会議事進行役を務める予定となっています。



第27回 国際度量衡総会の様子

<https://www.bipm.org/en/-/2023-03-21-cipm-louw-usuda>



写真左から、Dr. Usuda (幹事)、Dr. Richard (副委員長)、Dr. Louw (委員長)、Dr. Milton (国際度量衡局長・CIPM委員)、Dr. Olthoff (副委員長)